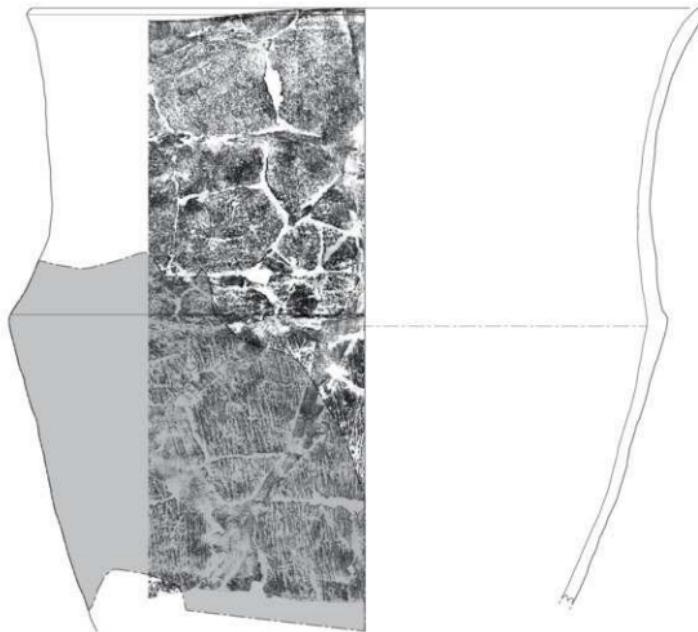


島原市内遺跡範囲確認調査報告書 1

【令和2年度調査分】



小原下遺跡出土埋甕（三万田式土器）
(S=1/3)

2022年

島原市教育委員会

島原市文化財調査報告書 第20集

島原市内遺跡範囲確認調査報告書 1

【令和2年度調査分】

2022年

島原市教育委員会

はじめに

島原市には約100箇所の遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）があります。これら遺跡は私たちが暮らす地域の歴史を物語る貴重な国民の共有財産です。私たち一人一人にこれらを適切に保存・活用し、後世の人々に伝えていく責務があります。

島原市教育委員会では、国・県等の公共事業に伴う開発や民間開発の際に、必要に応じ範囲確認調査等を行い、遺跡が残存する場合、開発者との協議を行い、遺跡の保護措置を講じができるようお願いしております。協議の結果やむを得ず保護ができない場合においては記録保存を目的とした発掘調査を実施しています。

令和2年度は、中原・寺中地区の基盤整備事業に伴う寺中城跡の範囲確認調査や、個人住宅建設に伴う範囲確認調査を実施しました。

本書は、令和2年度に島原市教育委員会が行った全ての範囲確認調査の概要について掲載しております。本書が市民の皆様の地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いです。

令和4(2022)年3月

島原市教育委員会
教育長 森本 和孝

例　言

- 1 本書は島原市における埋蔵文化財保護行政の現状と島原市教育委員会が令和2年度に実施した範囲確認調査（一部、工事立会も含む）の調査結果を収録したものである。
- 2 令和2年度の調査体制は以下のとおりである。

島原市教育委員会　社会教育課　文化財保護推進室　主任　宇土　靖之
主査　吉岡　慈文
主事　山下　祐雨
- 3 調査概要の遺跡位置図は長崎県教育庁学芸文化課のウェブコンテンツ『長崎県遺跡地図』(<http://iseki.news.ed.jp/iseki/controller/iseki.php>)を使用している。
- 4 調査概要については各遺跡の調査担当者と調査概要執筆者を文末に記している。
- 5 遺物実測は吉岡慈文・山下祐雨・吉田敏子・林聖子・荒木郁子が行い、遺構図・遺物図のデジタルトレースは吉岡が行った。
- 6 本書の執筆・編集は吉岡・山下が行った。
- 7 範囲確認調査により出土した遺物や実測図等は島原市教育委員会が保管している。

凡　例

- 1 原則として遺構の測定値はm単位を使用した。
- 2 土色の表記については『新版　標準土色帖』に準拠した。
- 3 遺物所見については紙幅の都合から遺物観察表をもって替えることとする。
- 4 出土遺物写真は任意縮尺で掲載している。

本文目次

第1章 島原市の埋蔵文化財について ······	3
第1節 周知の埋蔵文化財包蔵地 ······	3
第2節 各種統計 ······	6
第2章 令和2年度調査概要 ······	8
第1節 公共事業に伴う範囲確認調査 ······	8
1 寺中B遺跡 ······	8
2 寺中城跡 ······	9
3 上一野遺跡 ······	12
4 島原城跡 ······	14
第2節 民間事業に伴う範囲確認調査 ······	16
1 島原城跡 ······	16
2 大野原遺跡 ······	16
3 島原城跡 ······	18
4 磯石原遺跡 ······	19
5 島原城跡 ······	22
6 小原下遺跡 ······	24
7 小原下遺跡 ······	26
8 稗田原遺跡 ······	32
第3章 総括 ······	35
図版	
出土遺物実測図 ······	37
出土遺物写真 ······	40
遺物観察表 ······	44

第1章 島原市の埋蔵文化財について

第1節 周知の埋蔵文化財包蔵地

本書刊行時現在、島原市内には 101 箇所の「周知の埋蔵文化財包蔵地」がある。

【表1】島原市内の「周知の埋蔵文化財包蔵地」リスト

No.	遺跡名	種別	時代
1	景華園遺跡	墳墓	弥生
2	上中野遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
3	原口B遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
4	原口A遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
5	下油堀遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
6	上油堀遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
7	礫石原遺跡	墳墓 / 集落跡	縄文
8	礫石原古墳	墳墓	古代
9	長貫A遺跡	遺物包含地	旧石器 / 縄文
10	長貫B遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
11	寺中A遺跡	遺物包含地	弥生
12	寺中B遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
13	寺中城跡	城館跡	中世
14	中野川遺跡	遺物包含地	弥生
15	西川遺跡	遺物包含地	弥生
16	三会下町海中遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
17	畠中遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳 / 古代 / 中世
18	三会中学校遺跡	遺物包含地	縄文
19	津吹遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
20	鬼の家古墳	古墳	古墳
21	人塚古墳	古墳	古墳
22	大塚下遺跡	遺物包含地	中世
23	南橋沢遺跡	遺物包含地	弥生
24	大塚後遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
25	尻無遺跡	遺物包含地	縄文
26	大タブ沢遺跡	遺物包含地	縄文 / 中世
27	弓弦遺跡	遺物包含地	縄文
28	立野遺跡	遺物包含地	縄文
29	坪浦遺跡	遺物包含地	縄文
30	山崎遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
31	稗田原遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生 / 中世
32	下宮遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生 / 中世
33	釘原遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
34	平の山A遺跡	遺物包含地	縄文
35	肥賀太郎遺跡	遺物包含地	縄文
36	平の山B遺跡	遺物包含地	縄文
37	丸尾城跡	城館跡	中世
38	熊野神社遺跡	生産遺跡	古代 / 中世
39	熊野神社窯跡	窯跡	近世
40	道田遺跡	墳墓	弥生
41	沖田遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
42	沖田海中遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
43	沖田畠遺跡	遺物包含地 / 祭祀跡	古墳
44	長浜台場跡	台場跡	近世
45	島原城跡	城館跡	近世
46	大手浜遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生 / 古墳 / 古代 / 中世 / 近世
47	浜の城跡	城館跡	近世
48	小山館跡	城館跡	中世
49	矢櫻遺跡	遺物包含地	縄文
50	上の原遺跡	遺物包含地	弥生
51	安徳城跡	城館跡	中世
52	上馬場遺跡	墳墓	古墳
53	中南遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生 / 古墳
54	中木場遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生 / 古墳 / 古代 / 中世

55	南上木場遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
56	大塚古墳	古墳	古墳
57	長塚古墳	古墳	古墳
58	小塚古墳	古墳	古墳
59	筆塚古墳	古墳	古墳
60	馬渡遺跡	遺物包含地	縄文
61	権現脇遺跡	遺物包含地	縄文
62	戸田向原遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
63	釘崎城跡	城館跡	中世
64	清水山遺跡	遺物包含地	縄文
65	森岡遺跡	遺物包含地	縄文
66	二ツ石遺跡	遺物包含地	縄文
67	妙法塚遺跡	墳墓	弥生 / 古墳
68	中田遺跡	遺物包含地	縄文
69	大野浜城跡	城館跡	中世
70	平山古墳	古墳	古墳
71	大野城跡	城館跡	中世
72	大野原遺跡	遺物包含地 / 墳墓	縄文 / 弥生 / 古墳 / 古代
73	甘木遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
74	上松高野遺跡	遺物包含地	弥生
75	下源在高野遺跡	遺物包含地	縄文
76	上源在高野遺跡	遺物包含地	縄文
77	東空閑城跡	城館跡	中世
78	才木遺跡	遺物包含地	縄文
79	小原下遺跡	集落跡 / 遺物包含地	縄文 / 弥生 / 中世
80	小原上遺跡	遺物包含地	縄文
81	松尾遺跡	遺物包含地	古墳 / 古代
82	山ノ内遺跡	遺物包含地	古墳 / 古代
83	一野遺跡	遺物包含地 / 古墳	縄文 / 弥生 / 古墳
84	上一野遺跡	遺物包含地	縄文
85	灰ノ久保遺跡	遺物包含地	縄文
86	久原遺跡	遺物包含地	縄文
87	山ノ内上横穴古墳	古墳	古墳
88	温泉神社台地遺跡	遺物包含地	縄文
89	六人道横穴古墳	古墳	古墳
90	一本松遺跡	遺物包含地	縄文
91	私山横穴古墳	古墳	古墳
92	庄司屋敷古墳	古墳	古墳
93	小原下B地点遺跡	遺物包含地	縄文
94	塔ノ與横穴遺跡	墳墓	古墳
95	國土神社裏横穴	墳墓	古墳
96	庄司屋敷遺跡	遺物包含地	弥生 / 中世
97	東鷹野遺跡	遺物包含地	縄文
98	大高野遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳 / 中世
99	橋沢上遺跡	遺物包含地	旧石器 / 縄文 / 弥生
100	下雨粒木遺跡	遺物包含地	旧石器 / 縄文 / 弥生
101	上新高野遺跡	遺物包含地	旧石器 / 縄文 / 弥生



島原市遺跡地図

第2節 各種統計

1 令和2年度埋蔵文化財存否照会の統計

令和2年度の埋蔵文化財存否照会の総数は290件であった。そのうち「周知の埋蔵文化財包蔵地」内にかかる照会は48件であった。島原市においては建設部都市整備課と教育委員会社会教育課の間で建築確認申請にかかる情報を共有しており、建築確認関係では令和2年度は114件の照会を行った。このように建築確認を通じた照会は照会総数の約半数にのぼることから、埋蔵文化財保護のセーフティーネットとして有用であるといえる。(吉岡)

【表2】令和2年度島原市埋蔵文化財存否照会件数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
遺跡内	7	3	3	1	6	3	6	3	3	4	5	4	48
遺跡外 (隣接地)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
遺跡外	24	13	18	15	16	12	10	26	23	9	32	19	217
その他	3	1	1	3	1	4	2	2	1	1	1	3	23
合計	35	17	23	19	23	19	18	31	27	14	38	26	290

2 令和2年度埋蔵文化財発掘の届出(通知)件数

令和2年度の周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等の届出・通知(文化財保護法第93条・第94条)は、届出37件・通知19件であった。工事届出件数は、埋蔵文化財保護に対する啓発活動の強化等により増加傾向にある。中でも島原道路事業に伴う通知や島原城跡を中心とした中心市街地における開発事業に伴う届出の増加が顕著である。

開発事業に伴って島原市教育委員会が実施した範囲確認調査の実施件数は12件である。

また、無届工事は民間工事で9件、公共事業で5件、計14件確認した。これらは、埋蔵文化財の取扱いに伴う事務処理の周知不足や、埋蔵文化財存否照会等のセーフティーネットで把握できないために発生したものである。加えて、社会教育課文化財保護推進室を中心として無届工事の把握に努め、把握後は速やかに事業主体者に対して埋蔵文化財事務についての説明を行い、理解を求める等の取組みを積極的に行ったことも無届工事の確認件数の増加に繋がった一因と考えられる。今後も引き続き埋蔵文化財保護について周知・啓発を行っていくことが必要である。(吉岡)

【表3】令和2年度島原市埋蔵文化財発掘の届出一覧表

No.	受理日	遺跡名	区分	事業者	届出原因	対応
1	3月24日	島原城跡	届出	個人	個人住宅	調査後工事
2	4月1日	島原城跡	届出	個人	集合住宅	慎重工事
3	4月1日	小原上遺跡	届出	個人	個人住宅	工事立会
4	4月1日	甘木遺跡	届出	個人	事務所兼倉庫	慎重工事
5	4月7日	島原城跡	届出	個人	店舗兼住宅	慎重工事
6	4月17日	才木遺跡	届出	個人	浄化槽埋設	工事立会
7	4月21日	島原城跡	届出	個人	店舗解体	工事立会
8	5月7日	原口B遺跡	届出	個人	個人住宅	慎重工事
9	5月14日	島原城跡	届出	法人	集合住宅	調査後工事
10	5月15日	大野原遺跡	届出	個人	浄化槽埋設	調査後工事
11	5月20日	島原城跡	届出	個人	住宅解体	工事立会

12	6月4日	礫石原遺跡	届出	個人	浄化槽埋設	工事立会
13	6月5日	礫石原遺跡	無届	個人	個人住宅	厳重注意
14	6月8日	島原城跡	届出	個人	アコク解体	慎重工事
15	6月16日	才木遺跡	無届	個人	個人住宅	厳重注意
16	7月3日	島原城跡	届出	法人	ガス管付替え	慎重工事
17	7月6日	浜の城跡	届出	法人	ガス管付替え	慎重工事
18	8月12日	津吹遺跡	無届	個人	土取り	厳重注意
19	8月12日	原口B遺跡	無届	個人	土取り	厳重注意
20	8月17日	中南遺跡	届出	個人	倉庫建設	慎重工事
21	8月25日	原口B遺跡	届出	法人	作業所建設	慎重工事
22	8月28日	一野遺跡	届出	法人	コラム新設	慎重工事
23	9月16日	畠中遺跡	届出	法人	コラム新設	慎重工事
24	10月9日	中田遺跡	届出	個人	浄化槽埋設	慎重工事
25	10月9日	島原城跡	届出	個人	個人住宅	慎重工事
26	10月19日	島原城跡	届出	個人	個人住宅	調査後工事
27	10月19日	島原城跡	届出	法人	7m~ト建設	工事立会
28	12月22日	小原下遺跡	届出	法人	工場建設	調査後工事立会
29	1月7日	中南遺跡	届出	個人	自家用倉庫建設	慎重工事
30	1月18日	清水山遺跡	無届	個人	宅地造成・個人住宅	厳重注意
31	1月22日	清水山遺跡	無届	個人	水道管敷設	厳重注意
32	1月25日	小原下遺跡	届出	法人	緑地開発	調査後工事立会
33	2月26日	中南遺跡	届出	個人	個人住宅	慎重工事
34	3月11日	畠中遺跡	無届	個人	宅地造成・倉庫兼個人住宅	厳重注意
35	3月11日	柳田原遺跡	届出	法人	個人住宅	調査後工事立会
36	3月12日	大野原遺跡	届出	法人	携帯基地局新設	工事立会
37	3月22日	一野遺跡	無届	法人	進入路工事	厳重注意
38	3月25日	一野遺跡	無届	個人	駐車場造成	厳重注意

【表4】令和2年度島原市埋蔵文化財発掘の通知一覧表

No.	受理日	遺跡名	区分	事業者	届出原因	対応
1	5月1日	島原城跡	通知	市教委	掲台設置	調査後工事
2	6月16日	島原城跡	通知	島原市	電線地中化	工事立会
3	7月8日	庄司屋敷遺跡	通知	市教委	石垣擁壁復旧	慎重工事
4	7月21日	灰ノ久保遺跡	通知	振興局	ボーリング調査	慎重工事
5	8月12日	原口B遺跡	無届	振興局	土取り	厳重注意
6	8月24日	南上木場遺跡	通知	雲仙復興事務所	盛土・巨石破砕	慎重工事
7	10月1日	畠中遺跡	通知	振興局	歩道工事	慎重工事
8	10月13日	灰ノ久保遺跡	通知	振興局	ボーリング調査	慎重工事
9	10月13日	礫石原遺跡	無届	振興局	畠地灌漑	厳重注意
10	10月20日	津吹遺跡	通知	振興局	表土剥ぎ取り	慎重工事
11	10月22日	寺中A遺跡	通知	振興局	ボーリング調査	慎重工事
12	10月29日	鬼の家古墳	通知	振興局	アコク積・側溝工事他	慎重工事
13	10月29日	鬼の家古墳	通知	振興局	舗装工・側溝工事	慎重工事
14	11月11日	上一野遺跡	通知	振興局	土壤調査	調査後工事
15	11月13日	津吹遺跡	通知	振興局	表土剥ぎ取り	慎重工事
16	1月27日	原口B遺跡	無届	島原市	水道管敷設	厳重注意
17	1月27日	清水山遺跡	無届	島原市	水道管敷設	厳重注意
18	3月25日	礫石原遺跡	通知	雲仙復興事務所	雨量計設置	慎重工事
19	3月31日	大野原遺跡	無届	雲仙復興事務所	雨量計設置	厳重注意

島原市教育委員会が、文化財保護法第99条第1項の規定に基づき実施した発掘調査について通知した件数は3件である。島原振興局が事業主体である中原・寺中地区基盤整備事業に関連し、事前の範囲確認調査を寺中B遺跡と寺中城跡で実施した。民間太陽光発電設備工事に関して当初、文化財保護法第93条に基づく届出を受け、範囲確認調査を実施していたが、施行責任者から調査中に事業中止の連絡を受けたことから、文化財保護法第99条に基づく発掘調査の届出及び発掘調査カードの提出を行ったものである。

【表5】令和2年度島原市埋蔵文化財発掘の99条通知一覧表

No.	通知日	遺跡名	調査原因	備考
1	4月16日	寺中B遺跡	中原・寺中地区基盤整備事業	継続協議
2	7月6日	寺中城跡	中原・寺中地区基盤整備事業	継続協議
3	8月11日	礫石原遺跡	民間太陽光発電所建設	93条届出に基づく調査中に事業取下げ

第2章 令和2年度 調査概要

第1節 公共事業に伴う範囲確認調査

1 寺中B遺跡

調査期間：令和2年4月16日～令和2年4月20日

調査面積：4 m²

調査原因：中原・寺中地区基盤整備事業

調査担当：吉岡

調査概要：

今回調査をおこなった中原・寺中地区は、標高5m～52m、雲仙火山の麓の扇状地で南西から北東へと傾斜している。なだらかな傾斜地に段々畑が並び農業が営まれている。

中原・寺中地区的基盤整備事業推進範囲には、寺中B遺跡・寺中城跡・中野川遺跡・西川遺跡の4箇所の遺跡がある。

寺中B遺跡については令和2年度、1箇所(TP5)の範囲確認調査を実施した。ピット7基(2層上面で1基、3層上面で3基、4層上面で3基)を検出したものの出土遺物が少なかったこともあり、いずれも時期の特定には至らなかった。縄文時代の遺物包含層は層厚で10cm程度残存しており、当該地周辺の工事にあたっては島原市教育委員会との協議が必要である。(吉岡)



中原・寺中地区基盤整備事業に伴う範囲確認調査

(令和2年度調査箇所：寺中城跡 TP4・TP5・TP6 / 寺中B遺跡 TP5)

【TP5】

中原・寺中地区は河岸段丘の最上部、寺中B遺跡の南西端（現圃場）中央部に2m×2mの調査坑（TP5）を設定し、表土から人力掘削にて調査を実施した。

調査地周囲の表土には土器片や黒曜石等が散在している状況が確認できたが、調査坑からの遺物の出土は僅少で、実測に耐えうる遺物は出土しなかった。遺構等については、ピットと考えられるものを7基確認した。中でもSP4・SP5は柱穴の可能性があるが、SP4については近世陶磁器が出土し、SP5については遺物の出土がなかったため時代については不明である。なお、SP3からは黒曜石の剥片と鉄滓が出土した。土層堆積状況は以下のとおりである。（吉岡）

1層：黒褐色砂礫土 (Hue10YR2/2)…現耕作土

粘性あり、しまりあり。5mm～1cm大の礫を30%程含む。

2層：暗褐色砂質土 (Hue7.5YR3/4)

粘性あり、しまりあり。耕作の影響で黒褐色砂質土 (Hue7.5YR3/2)と混じる。

2mm～5mm大の礫を10%程含む。

3層：黒褐色砂質土 (Hue7.5YR2/2)

粘性あり、しまりあり。灰黄褐色混バミス硬質土 (Hue10YR4/2・「カシノミ」)をブロック状に含む。

4層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4)

粘性弱、しまり強。火山性降下物の堆積層。土壤化がすすみブロック状にボロボロ掘削できる。

5層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3)

粘性弱、しまり強。火山性降下物の堆積層。4層に比べると土壤化がすすんでおらず、しまりが強い。



包含層検出状況



寺中B遺跡 TP5 完掘状況（北より）

2 寺中城跡

調査期間：令和2年6月17日～令和2年7月14日

調査面積：13.6m²

調査原因：中原・寺中地区基盤整備事業

調査担当：宇土・吉岡・山下

調査概要：

寺中城は『日本城郭大系』第17巻、『長崎県遺跡地図』、『長崎県中近世城館跡分布調査報告書II』では、中野川と寺中川に挟まれた台地上に立地するとされ、台地の中央に北西～南東方向に延びる堀切（空堀）が掘られ、堀切をはさんで北側と南側に曲輪が残存し

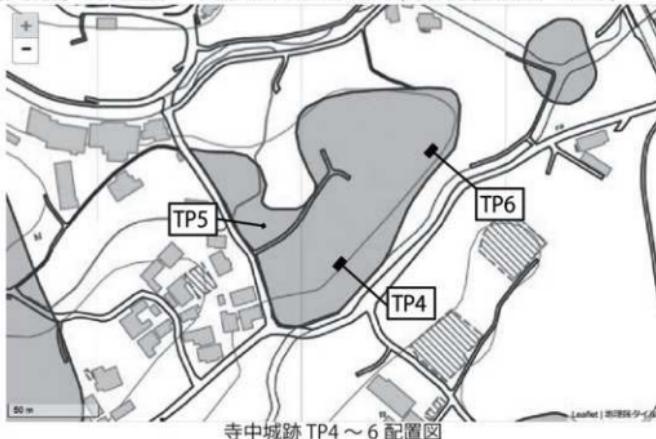
ている。古文書にみられる「美江」「見江」の城に比定される中世城郭であり、島原藩の調査記録『島原大概様子書』(江戸時代中期・肥前島原松平文庫所蔵)においても古城跡1カ所が寺中名の内にあるが、城主はわからず今は畑であるとの記載されている。

寺中城は、フロイス『日本史』等の沖田継の戦いに関する記述の中で、「美江」「見江」「三会」の城として登場し、沖田継の戦いの直前に龍造寺隆信が3日間滞留したため、「三日城」(木田 1999)とも呼ばれる。

令和2年度、3箇所(TP4・TP5・TP6)の範囲確認調査を実施した。調査の結果、中世の包含層は煙作等の影響で削平されていたが、TP4・5から縄文・弥生時代の遺物包含層を確認した。TP6は、遺構や明確な遺物包含層は確認できなかった。

寺中城跡周辺の基盤整備事業については、調査成果を踏まえて県・市耕地水産課・社会教育課で引き続き協議を行い、城跡保護と事業実施の調整を行っていく。(吉岡・山下)

【参考文献】木田 正巳編『二本木様の沿革と沖田継の戦い』(島原文化遺跡保存会、1999年)



【TP4】

寺中城跡の南西部に東西方向に 4.8m^2 ($4\text{m} \times 1.2\text{m}$) の調査坑 (TP4) を設定し、表土から人力掘削にて調査を実施した。TP4 の表土からは、弥生土器片や近世陶磁器片、黒曜石が含まれていた。2層は主として上層部で縄文土器や弥生土器、陶磁器片、ガラス片が出土した。下層部では縄文土器の割合が高くなったが、須恵器(碗の高台部)も1点確認した。3層は調査坑東側に約 10cm の層厚で堆積する暗褐色砂質土を主体とする層である。3層は弥生土器をはじめ縄文土器もやや含む。3b層は調査坑西側にみられる堆積で黒褐色と暗褐色が混じる。出土遺物は3層と同様に弥生土器が多い。4層は暗褐色砂質土からなる堆積で弥生土器と縄文土器を含む層である。以上のことから3b層は3層と4層が何らかの原因で搅乱された層と想定される。5層は暗褐色砂質土からなる堆積で、弥生土器がわずかに含まれる。6層はいわゆる「カシノミ層」であり遺物の出土はない。

TP4 の土層堆積状況は各層とも概ね水平に堆積しているが、5・6層は若干の起伏を伴う。南側は畑地造成に伴い搅乱されていると考えられる他、南側斜面には竹が繁茂していることから堆積が乱れている。TP4 で確認した土層堆積状況は以下のとおりである。(吉岡)

- 1層：黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/2)…現耕作土
粘性あり、しまりあり。5mm～1cm 大の礫を 10% 程含む。
- 2層：暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/4)
粘性あり、しまりあり。1mm～3mm 大の赤色粒・白色粒を 20% 程含む。
1mm～3mm 大の礫を 10% 程、3cm 大の礫も 10% 程含む。
- 3層：暗褐色砂質土 (Hue7.5YR3/4)
粘性あり、しまりあり。2mm～5mm 大の礫を 15% 程含む。
縄文土器・弥生土器が含まれる層。
- 3b 層：黒褐色砂質土 (Hue7.5YR2/2) と暗褐色砂質土 (Hue7.5YR3/4) が混ざり合う
粘性あり、しまりあり。2mm～5mm 大の礫を 15% 程含む。5 層を 1cm～
5cm 大のブロックで 15% 含む。弥生土器が含まれる層。
- 4層：暗褐色砂質土 (Hue7.5YR2/2)
粘性あり、しまりあり。炭化物を 5% 程含む。2mm～5mm 大の礫を 15% 程含む。
縄文土器・弥生土器が含まれる層。
- 5層：黒褐色砂質土 (Hue10YR3/4)
粘性あり、しまりあり。1mm～3mm 大の礫を 20% 程含む。6 層を ブロック状
に含む。
- 6層：灰黄褐色混バミス硬質土 (Hue10YR4/2・「カシノミ」)
粘性あり、しまり強。

【TP5】

- 寺中城跡の東側に 4 m² (2 m × 2 m) の調査坑 (TP5) を設定し、表土から人力掘削にて調査を実施した。TP5 における土層堆積状況は以下のとおりである。(山下)
- 1層：暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/3)…現耕作土
- 2層：暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/3)…床土
- 3層：暗褐色砂質土 (Hue7.5YR3/3)…近現代の盛土層
耕作土に褐色土 (Hue10YR4/6) と 4 層がブロック状に混ざる
- 4層：黒褐色砂質土 (Hue10YR3/1)
縄文時代～弥生時代の遺物包含層。雨天後、水が湧出する。
- 5層：岩盤 (拳大～人頭大の礫を主体とする層)

【TP6】

- 寺中城跡の南東部 (堀切北側の曲輪の一部) に 4.8m² (4 m × 1.2 m) の調査坑を設定し、表土より人力掘削にて調査を実施した。TP6 の土層堆積状況は以下のとおりである。(山下)
- 1層：暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/3)…現耕作土
1cm 大の安山岩礫が混じり、耕作により部分的に締まったところがある。
- 2層：暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/3)
1 層と同様の堆積物だが、より固く締まる。この層からトレンチャーによる搅乱
が確認できる。



寺中城跡 TP4 完掘状況（南西より）



寺中城跡 TP5 完掘状況（南より）



寺中城跡 TP6 完掘状況（北より）

3 上一野遺跡

調査期間：令和2年11月12日～令和2年11月13日

調査面積：4 m²

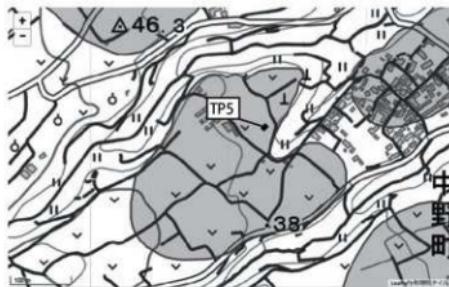
調査原因：一野地区基盤整備事業（土壤調査）

調査担当：山下

調査概要：

当該地は、舞岳から延びる緩やかな扇状地であり、丘陵尾根先端部分に位置する。一野地区基盤整備事業にかかる土壤調査が行われる1箇所に調査坑（TP5）を設定し最大深度約1.3mまで人力で掘削し調査を行った。その結果、2層のぶい橙色火山灰土（鬼界アカホヤ火山灰2次堆積）から一野式土器と考えられる貝殻条痕文土器が出土した。3層の褐灰色火碎流堆積物2次堆積（カシノミ層2次堆積）からは、黒曜石・縄文土器・須恵器が出土した。4層の黒褐色粘質土（第3黒色帶）からは、黒曜石が出土した。

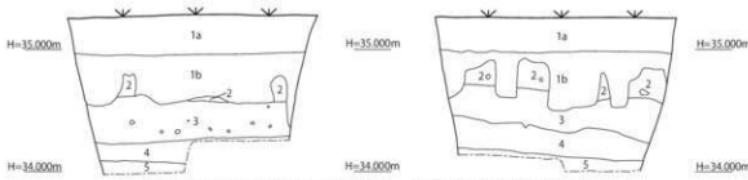
上一野遺跡及びその隣接地の基盤整備事業については、調査成果を踏まえて県・市耕地水産課・社会教育課で引き続き協議を行い、遺跡の保護と事業実施の調整を続ける必要がある。（山下）



上一野遺跡 TP5 調査位置図



上一野遺跡 TP5 完掘状況（南より）



上一野遺跡 TP5 東壁土層断面図・北壁土層断面図 ($S=1/40$)

【土層注記】

1a層：現表土

1b層：耕作土

2層：にぶい橙色火山灰土 (Hue 5YR6/4)

粘性あり、しまりあまりない。きめ細かな土壤。3層がブロック状に混じる。

貝殻条痕土器が出土。(アカホヤ2次堆積層)

3層：褐灰色火碎流堆積物

粘性あり、しまりやや強。拳大のブロック状に剥離する。

黒曜石・縄文土器・須恵器が出土。(カシノミ2次堆積層)…古墳時代以降の堆積

4層：黒褐色粘質土 (Hue7.5YR3/1)

粘性あり、しまりあり。1mm 大の白色粒を含む。1mm 以下の土壤主体の堆積。

黒曜石が出土。(第3黒色帶)…旧石器時代の堆積

5層：橙色粘質土 (Hue5YR7/6)

粘性あり、しまりややあり。1cm 大の角礫ディサイトを少量含む。(基盤層)

4 島原城跡

調査期間：令和2年6月22日～令和2年6月23日

調査面積：3.91m²

調査原因：島原第一中学校掲揚台新設工事

調査担当：山下

調査概要：

当該地は、島原城跡の三ノ丸西側の外堀線内に位置する。島原市立第一中学校の掲揚台新設部分に桜が生育していた部分を除き 1.3 m × 1.7 m (TP1) と 1 m × 1.7 m (TP2) の調査坑を設定し最大深度約 1.35 mまで人力で掘削し調査を行った。その結果、表土下に現代の客土を確認し、遺構や明確な遺物包含層の確認はできなかったため、慎重工事での対応となった。（山下）



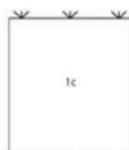
島原城跡 TP 配置図



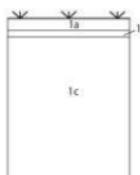
島原城跡 TP1 完掘状況（南より）



島原城跡 TP2 完掘状況（南より）



1a層：客土 黒褐色土
1b層：客土 黄褐色土
1c層：客土 黑褐色土
いずれの層にもビニール等が混じる



島原城跡 TP1 北壁土層柱状図・TP2 北壁土層柱状図

(S=1/40)



令和2年度 島原城跡における範囲確認調査実施箇所

第2節 民間事業に伴う範囲確認調査

1 島原城跡

調査期間：令和2年4月15日～令和2年4月16日

調査面積：3.75m²

調査原因：個人住宅建設（浄化槽埋設）

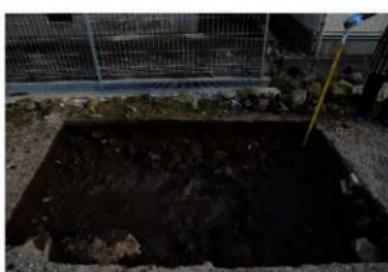
調査担当：吉岡

調査概要：

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「島原城跡」にあたり、近世においては上級藩士の屋敷が立ち並んでいた場所である。個人住宅建設にあたり、浄化槽埋設部分について3.75m² (2.5 m × 1.5 m) の調査坑を設定し、表土より人力にて掘削した。陶磁器片が数点確認されたものの、表土から30cm程の深度で水が湧いたため、宅地造成に伴って近世の遺物包含層は削平されていると考えられ、慎重工事での対応となった。（吉岡）



調査地位置図



地下水湧出状況（北より）

2 大野原遺跡

調査期間：令和2年6月2日～令和2年6月8日

調査面積：6.48m²

調査原因：浄化槽埋設

調査担当：山下

調査概要：

当該地は、普賢岳から延びる緩やかな扇状地であり、大野原遺跡のほぼ中央に所在する。浄化槽設置部分に6.48m² (1.8 m × 3.6 m) の調査坑を設定し最大深度約1.5mまで人力で掘削し調査を行った。

当該地の耕作土下位の3層の黒色火山灰土から土師器・縄文土器・黒曜石が出土し、4層の黄褐色火山灰土から縄文土器・土師器・墨書き土器が出土した。5層の暗灰黄色火山灰土からも縄文土器が出土した。6層の黄灰色粘質土（カシノミ層）の下位には、7層のオリーブ黒色粘質土と明黄褐色粘質土（大三東ローム層）を確認した。6層カシノミ層上面で6・7層を掘り込む縄文時代のものと考えるピット1基を確認した。

調査により当該工事による遺跡の滅失部分の調査を完了したことから、慎重工事での対応となった。（山下）



調査地位地図



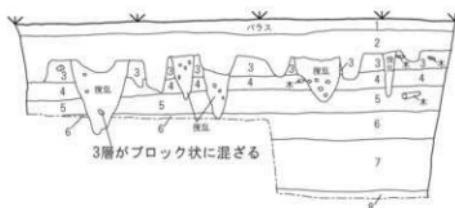
調査坑断面 (北西より)

H=23.500m

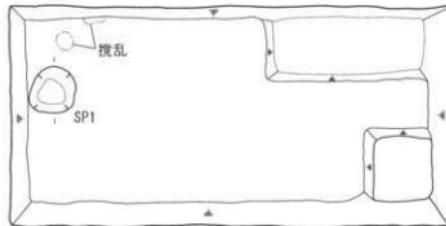
H=23.000m

H=22.500m

H=22.000m



N ←



22.500m

SP1

1

平面図・東壁土層断面図 (S=1/40)

【土層注記】

1層：碎石

2層：耕作土

3層：黒色火山灰土 (Hue10YR2/1)

粘性やや弱、しまりやや弱。0.1mm以下の土壤主体の堆積層。

0.1mm以下の白色粒中量含む。縄文土器・土師器・黒曜石が出土。

4層：黄褐色火山灰土 (Hue2.5Y5/4)

粘性やや弱、しまりやや弱。0.1mm以下の土壤主体の堆積層。

縄文土器・土師器・黒曜石が出土。

5層：暗灰黄色火山灰土 (Hue2.5Y4/2)

粘性やや弱、しまりやや弱。0.1mm以下の土壤主体の堆積層。縄文土器が出土。

6層：黄灰色粘質土 (Hue2.5Y6/1)

粘性やや弱、しまりあり。1mm～2mmの大角状白色粒中量含む。0.1mm以下の土壤主体の堆積層。(カシノミ層)

7層：オリーブ黒色粘質土 (Hue5Y3/1)

粘性ややあり、しまりあり。0.1mmの大白色粒少量含む。0.1mm以下の土壤主体の堆積層。

8層：明黄褐色粘質土 (Hue10YR6/8)

粘性ややあり、しまりあり。0.1mmの大白色粒少量含む。0.1mm以下の土壤主体の堆積層。(大三東ローム層)

SP1 埋土

褐灰色シルト質土 (Hue10YR4/1)

粘性やや弱い、しまりややなし。0.1mm以下の土壤主体の堆積。

6・7層を掘り込む。縄文土器出土。

3 島原城跡

調査期間：令和2年6月12日～令和2年6月19日

調査面積：6.63m²

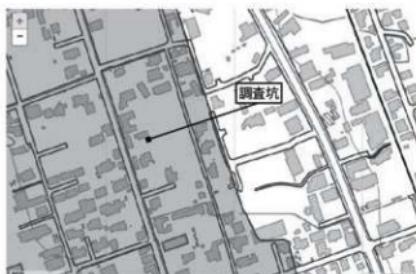
調査原因：集合住宅建設(浄化槽埋設)

調査担当：山下

調査概要：

当該地は、島原城跡の三ノ丸北側の外堀線内に位置する。西から東に向かい緩やかに傾斜がある。浄化槽部分に6.63m²(1.7m×3.9m)の調査坑を1か所設定し、表土から最大深度約1.35mまで人力で掘削し調査を行った。

当該地は表土下に現代の造成土を確認し、東側の一部に近世の遺物包含層を確認した。遺構の確認はできなかった。当該調査により遺物包含層の滅失部分の調査が完了したことから、慎重工事での対応となった。(山下)



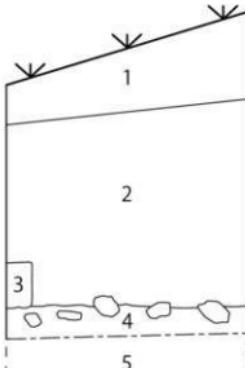
調査地位置図



完掘状況（北から）

H=8.910m

H=7.910m



南壁土層柱状図 (S=1/20)

【土層注記】

1層：表土

2層：客土

ガラス・釘が混じる。0.5cm 大の礫含む。湧水あり。

3層：灰色粘質土 (Hue5Y5/1)

粘性強、しまりやや弱。湧水あり。鉄分の沈着が全体的にみられる。

30cm 大の亜角礫デイサイト少量含む。5cm 大の亜角礫デイサイト少量含む。

0.1mm 以下の土壤主体の堆積層。近世の遺物包含層。

4層：黒褐色粘質土 (Hue2.5Y3/1)

粘性強、しまりやや弱。湧水あり。5 ~ 25cm 亜角礫デイサイト中量堆積し、その隙間に黒褐色土が充填している。

礫は、山側から海側に向かい覆瓦状構造を呈する。

5層：黄褐色砂質土 (Hue2.5Y5/6)

粘性あり、しまりややあり。

5mm 大の隅丸礫中量含む。0.1mm 大の土壤主体の堆積層。

4 磯石原遺跡

調査期間：令和2年8月3日～令和2年8月21日

調査面積：18.9m²

調査原因：太陽光発電施設建設

調査担当：山下

調査概要：

当該地は、雲仙火山群の火山性扇状地が発達し裾野が北東部へ有明海に向かってのびる扇頂部に所在する。当該遺跡は、戦後の開拓によって遺物などが発見され、縄文晩期の遺跡として周知された。その後、数回の発掘調査が実施されているが、縄文晩期の遺物包含層は、ほとんど確認できていないため耕作や傾斜地ゆえの自然流出によって、大部分が滅失している可能性がある。

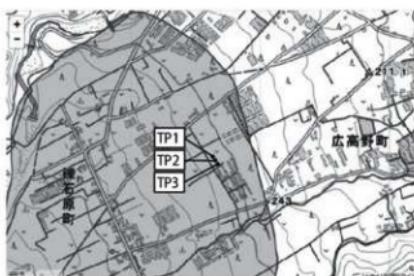
調査は、茶畠の一画の休耕地での太陽光発電設備工事計画を受け、北東にのびる地形

と平行するように 6 m² (2m × 3 m) の調査坑を 3ヶ所設置し人力掘削を行った。その内 TP3 では、一部調査区を拡張し人力掘削を行った。

基本土層は、1a 層は表土、1b 層は明褐色灰色火山灰土（平成新山の降灰）、2 層は黒色火山灰土（耕作土）、3a 層は暗灰黄火山灰土（鬼界アカホヤ火山灰 2 次堆積、黒曜石、安山岩出土）、3b 層は黄褐色火山灰土、4a 層は黒褐色粘質土、5 層は浅黄橙色砂質土（基盤層）である。

過去の同遺跡での発掘調査で確認している 4b 層（カシノミ層）は、当該地では確認できなかった。また、TP2 では、本市東鷹野遺跡で確認されているものと同様な近現代の割石遺構を確認したがその他には遺構は確認できなかった。（山下）

【参考文献】有明町教育委員会『東鷹野遺跡』（有明町文化財調査報告書第 13 集、有明町教育委員会、2001）



TP1~3 配置図



TP1 完掘状況（東より）



TP2 完掘状況（東より）

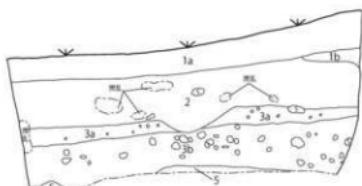


TP3 完掘状況（南より）

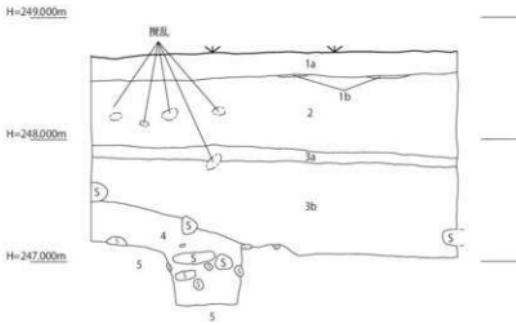
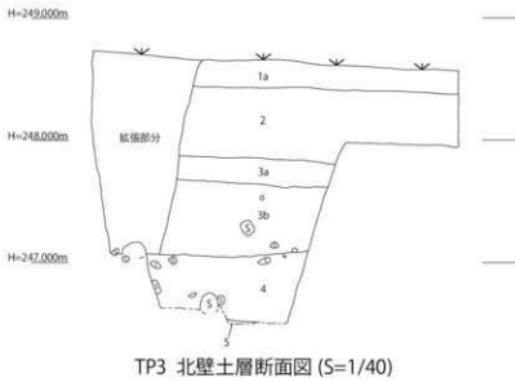
H=252.000m

H=251.000m

H=250.000m



TP1 南壁土層断面図 (S=1/40)



【土層注記】

1a 層：表土

1b 層：明褐色火山灰土 (Hue7.5YR7/2)…平成の噴火時に伴う降灰か

2 層：黒色火山灰土 (HueN2/)…現代の耕作土

ビニール混じる。

3a 層：暗灰黄色火山灰土 (Hue2.5YR4/2)

3b 層の土壤が 1cm 大のブロック状に混ざる。黒曜石・安山岩出土。(アカホヤ 2 次堆積層) 遺物包含層

3b 層：黄褐色火山灰土 (Hue10YR5/6)

- 5～30cm 大の隅丸ディサイト礫を多量に含む
40～50cm 大の隅丸ディサイト礫を少量含む
1mm 以下の土壌を主体とする総体積層
- 4a 層：黒褐色粘質土 (Hue2.5Y3/1)
粘性やや弱、しまりあり。0.1mm 以下の土壌主体の堆積層。
- 5mm ～ 1cm 大の亜角礫ディサイト中量含む。5～15cm 大の亜角礫ディサイト中量含む。0.1mm 以下の土壌主体の堆積層。
- 5 層：浅黄橙色砂質土 (Hue10YR8/4)
粘性やや弱、しまり非常に強。30cm 大の隅丸ディサイト多量に含む。5mm 大の隅丸ディサイト多量に含む。

5 島原城跡

調査期間：令和2年12月9日～令和2年12月11日

調査面積：3 m²

調査原因：個人住宅建設（浄化槽埋設）

調査担当：吉岡

調査概要：

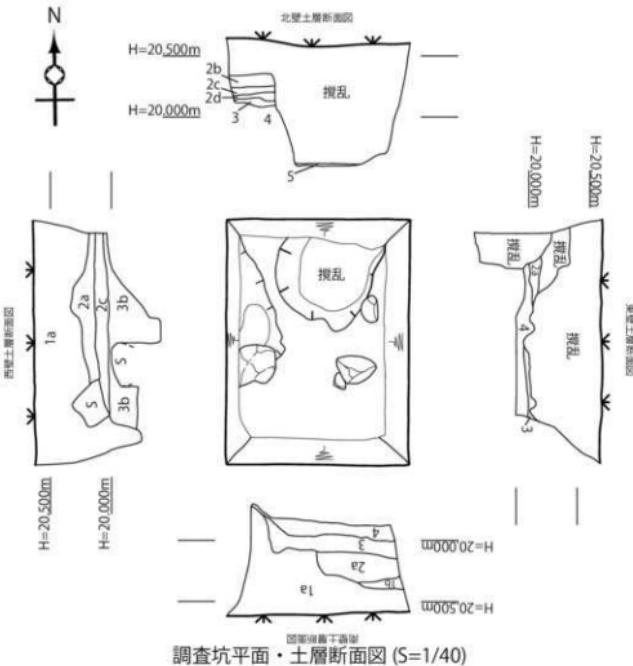
当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「島原城跡」にある。島原城跡の外曲輪内西側に位置し、近年まで住宅が建設されていたが、調査時には更地となっていた。個人住宅建設にあたり、浄化槽埋設部分について 3 m² (2 m × 1.5 m) の調査坑を設定し、表土より人力にて掘削した。宅地造成及び家屋解体に伴う搅乱により遺構や遺物包含層は確認できなかつたことから、住宅建設工事による埋蔵文化財への影響はないと考えられるため、慎重工事での対応となった。（吉岡）



調査位置図



完掘状況（西より）



調査坑平面・土層断面図 ($S=1/40$)

【土層注記】

1a 層：褐灰色砂礫土 (Hue7.5YR4/1)

コンクリート廃材等を含む碎石層。

1b 層：黒褐色砂質土 (Hue5YR2/1)

粉末状の炭化物を多量に含み、調査坑南壁 1 層下位にみられる。

2a 層：黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/2)

粘性あり、しまりあり。粗粒砂を含み、5mm ~ 2cm 大の礫も 25% 程含む。

2b 層：黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR2/2)

粘性あり、しまりあり。粗粒砂主体の層。暗赤褐色粒 (Hue5YR3/4・3mm ~ 5mm 大) を 15% 程含む。

2c 層：黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/2)

粘性あり、しまりあり。粗粒砂主体の層。暗赤褐色粒 (Hue5YR3/4) を 70% 程含む。

2d 層：黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR2/2)

粘性あり、しまりあり。粗粒砂主体の層。にぶい黄褐色砂礫土 (Hue7.5YR5/4) が 2cm 大の小片として混入する。暗赤褐色粒 (Hue5YR3/4) を 15% 程含む。

3a 層：黒色砂礫土 (Hue7.5YR2/1)

粘性あり、しまりあり。中粒砂を含む層。2mm ~ 3mm 大の礫を含む。陶磁器の小片が僅かに含まれる。

3b 層：黒褐色砂礫土 (Hue10YR3/2)

粘性あり、しまりあり。中粒砂主体の層。1cm 大の礫を 30% 程含む。拳大～人頭大

の礫を含む。西壁 2c 層下位にみられる。

4 層：にぶい黄褐色砂礫土 (Hue7.5YR5/4)

粘性弱、しまり強。中粒砂主体の層。拳大～人頭大の礫を含む。

5 層：灰黄褐色砂礫土 (Hue10YR4/2)

粘性弱、しまり非常に強。極粗粒砂～粗粒砂主体の層。1～2cm 大の礫を含む。拳大の礫を含む。搅乱最下部で確認。基盤層か。

6 小原下遺跡

調査期間：

(範囲確認) 令和 3 年 2 月 1 日～令和 3 年 2 月 17 日

(工事立会) 令和 3 年 3 月 27 日

令和 3 年 4 月 3 日～4 月 9 日

調査面積：4 m²

調査原因：緑地整備

調査担当：山下

調査概要：

(範囲確認)

当該地は、舞岳から延びる緩やかな扇状地であり、有明海の海岸の洪積世段丘上に位置する。調査は、4 m² (2 m × 2 m) の調査坑を 1 箇所設定し、表土より最大深度約 0.9 m まで人力掘削した。

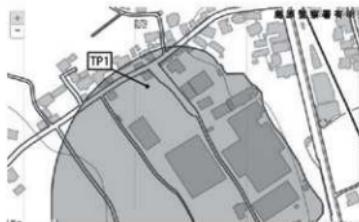
耕作土下位に縄文後期～弥生中期の遺物包含層（3 層）を確認（現代の耕作により一部削平を受ける）したが、出土遺物は小片が数点であった。また、磨滅が著しいことから 2 次堆積の可能性が高い。遺構は、時期不明のピット 1 基（3 層上面検出）と縄文後期～弥生中期のものと考えられるピット 4 基（4 層上面検出）を確認した。

範囲確認調査の結果、当初事業計画のままであれば、切土深度が遺物包含層まで達することとなるため、耕作土内での切土となるよう遺跡の保護措置について協議を図ったが、保護措置を講ずることは不可能との回答があった。

当該地の場合、遺物包含層が現代の耕作により溝状の掘削を受けており、出土遺物点数が少ないと想定される。縄文後期～弥生中期のものと考えられる遺構検出面までは切土深度が到達しないことから工事立会での対応となった。

(工事立会)

樹木の伐根のための掘削深度は、縄文時代等の遺構を確認している 4 層（現況表土下約 90cm）以下に及ばないよう協力いただいた。また、造成工事は 3 層までの掘削に留め、重機の踏み荒らさない施工を依頼した。当該工事立会では、遺構及び遺物の確認はできなかった。（山下）



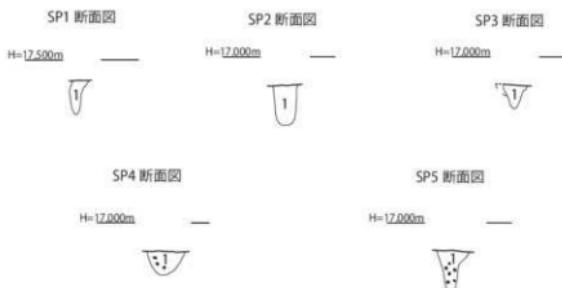
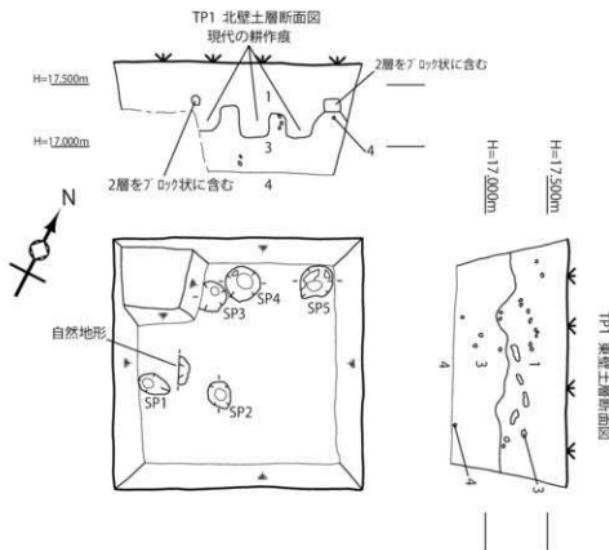
TP1 配置図



TP1 4層遺構半截状況



TP1 4層遺構完掘状況



TP1 4層検出平面図・北壁土層断面図・東壁土層断面図 (S=1/40)

【土層注記】

- 1層：表土（耕作土）
- 2層：黒色火山灰土
TP1では層位として確認できなかったが、1層内にブロック状に混じる。
- 3層：にぶい黄褐色火山灰土
粘性やや弱、しまりやや弱。1mm以下の土壤主体の堆積層。4層の土壤を2~4cm大に少量含む。縄文土器・黒曜石が出土。（縄文後期～弥生中期の包含層）
- 4層：黒褐色砂礫土
粘性やや弱、しまりややあり。1cm大の亜角礫デイサイト少量含む。

SP1 埋土

- 1層：黒色土
出土遺物なし。時期不明。3層上面で検出し、3・4層を掘り込む。
- 2層と同様の土壤が堆積する。

SP2～SP5 埋土

- 1層：にぶい黄褐色土
縄文土器出土。4層上面で確認し、4層を掘り込む。
- 3層と同様の土壤が堆積する。また、4層の土壤がブロック状に混じる。

7 小原下遺跡

調査期間：

（範囲確認）令和3年2月12日～2月26日

（工事立会）令和3年4月3日～4月9日

調査面積：36m²

調査原因：工場建設

調査担当：山下

調査概要：

（範囲確認）

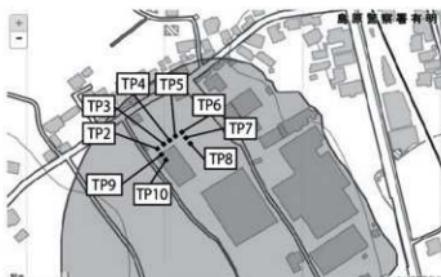
当該地は、舞岳から延びる緩やかな扇状地であり、有明海の海岸の洪積世段丘上に位置する。調査は、4m²（2m×2m）の調査坑を工場基礎設置予定の9箇所（TP2～10）に設定し、最大深度約1.8mまで人力掘削した。耕作土下位に弥生中期以降の遺物包含層（2層）と縄文後期～弥生中期の遺物包含層（3層）を一部で確認したが、工場建設の基礎掘削予定深度内は、大部分が現代の造成等により削平を受けていた。3層は、出土遺物の磨滅が著しいことから2次堆積の可能性が高い。遺構は、TP2から時期不明のピット2基（3・4層上面検出）を確認した。

TP2～8は基礎掘削予定深度の調査を完了したが、TP9・10は表土下約50cmでコンクリートが埋設しており、人力掘削が困難であったことから工事立会での対応となった。

(工事立会)

TP9部分では、耕作土下位に弥生中期以降の遺物包含層（2層）と縄文後期～弥生中期の遺物包含層（3層）を確認した。遺構は、底部を打ち欠いた埋甕（三万田式土器の深鉢）1基（4層上面検出）と時期不明のピット3基（3・4層上面検出）を確認した。

TP10部分では、碎石の下位に縄文後期～弥生中期の遺物包含層（3層）を一部確認したが、遺構や遺物の確認はできなかった。（山下）



TP2～TP10配置図



TP2 4層(包含層)検出状況



TP3 完掘状況



TP4 完掘状況



TP5 完掘状況



TP6 完掘状況



TP7 完掘状況



TP8 完掘状況



TP9 埋甕 (SK1) 検出状況



TP9 埋甕 (SK1) 内埋土半截状況



TP9 埋甕 (SK1) 内埋土完掘状況



TP9 埋甕 (SK1) 掘り方半截状況



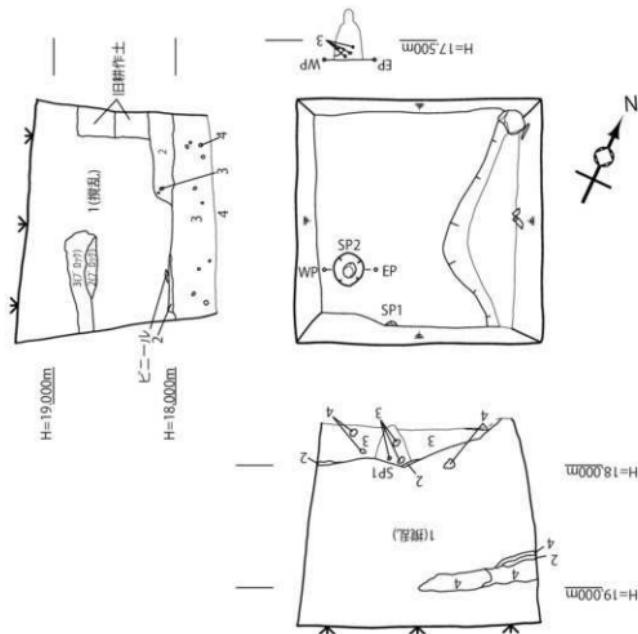
TP9 埋甕 (SK1) 掘り方完掘状況



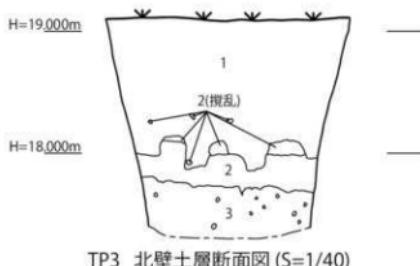
TP9 完掘状況



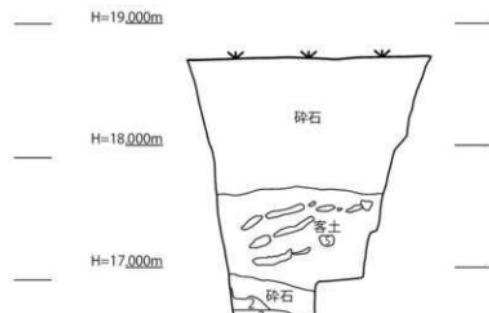
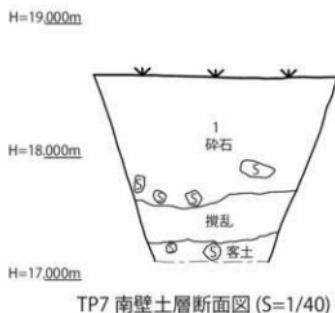
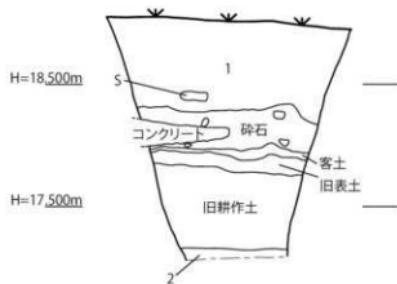
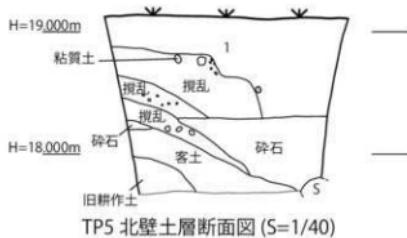
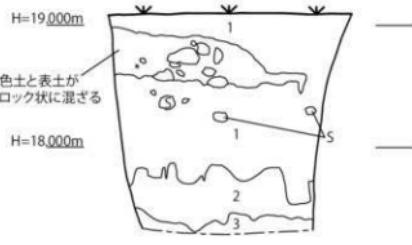
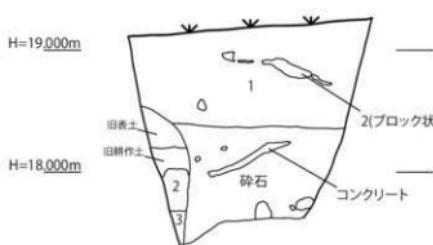
TP10 完掘状況

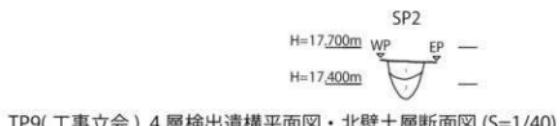
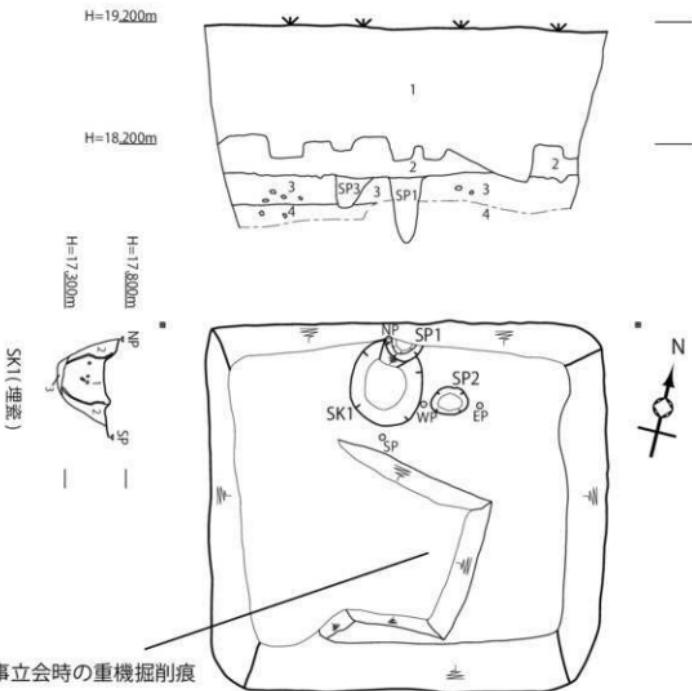


TP2 4層 遺構平面図・西壁土層断面図・南壁土層断面図 ($S=1/40$)

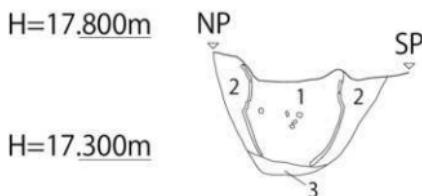


TP3 北壁土層断面図 ($S=1/40$)





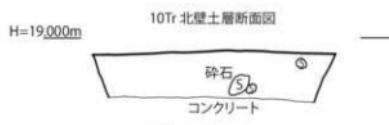
TP9(工事立会) 4層検出構造平面図・北壁土層断面図 (S=1/40)



TP9(工事立会) SK1 断面図 (S=1/20)



TP9 西壁土層断面図 (S=1/40)



TP10 北壁土層断面図 (S=1/40)

【土層注記】

- 1層：表土（耕作土）
- 2層：黒色火山灰土
 - 粘性やや弱、しまりややあり。0.1mm以下の土壤主体の層。
 - 5mm大の亜角礫赤色粒少量含む。1~6cm大の亜円礫デイサイト少量含む。
 - 弥生中期以降の遺物包含層。
- 3層：にぶい黄褐色火山灰土
 - 粘性やや弱、しまりやや弱。1mm以下の土壤主体の堆積層。4層の土壤を2~5cm大のブロック状に含む。1~4cm大の亜角礫バミスを微量に含む。（縄文後期～弥生中期の遺物包含層）
- 4層：明黄褐色粘質土
 - 粘性弱、しまりやや強。1cm大の亜角礫デイサイト少量含む。

SP1：黒色火山灰土（基本土層2層）

にぶい黄褐色火山灰土（基本土層3層）が1cm大のブロック状に少量含む

SP2：黒色火山灰土（基本土層2層）

にぶい黄褐色火山灰土（基本土層3層）

4層上面で検出。4層を掘り込む。

SP3：黒色火山灰土（基本土層2層）

にぶい黄褐色火山灰土（基本土層3層）が1cm大のブロック状に少量含む

SK1

1層：にぶい黄褐色火山灰土（Hue10YR4/3）

粘性弱、しまり弱。0.1mm以下の土壤主体の堆積層。明黄褐色粘質土（基本土層4層）
が3cm大のブロック状に堆積（堆積方向はばらばら）1cm大の角状炭化物を少量含む。

2層：にぶい黄褐色火山灰土（Hue10YR4/3）

黒褐色火山灰土（Hue2.5YR3/2）が混じる。粘性弱、しまり弱。0.1mm大の白色粒子を
少量含む。1~1.5cm大の風化礫を微量に含む。（埋甃方充填土）

3層：黒褐色火山灰質土（Hue10YR2/2）

粘性弱、しまり弱。1mm大の雲母を極少含む。（埋甃埋設時の高さ調整土）

8 稲田原遺跡

調査期間：令和3年3月15日～令和3年3月19日

調査面積：4m²

調査原因：個人住宅建設（浄化槽埋設）

調査担当：吉岡

調査概要：

調査地は稗田原遺跡内の北東側に位置する。元々は鶏舎が建てられていたが、現状は宅地となっている。平成19年度には調査地から西に100m程の地点で県道202号の改良工事に係る発掘調査が県により実施されており、南北方向に延びる溝状構造（自然流路）が確認されている（長崎県文化財調査報告書第194集）。

今回は個人住宅の建設が計画されたため、浄化槽埋設予定箇所に4m²（2m×2m）の

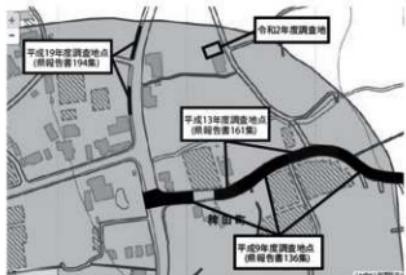
調査坑を1箇所設定し表土より人力掘削にて調査を実施した。

調査の結果、3層上面においてピットの可能性があるものが4基（SP1・SP2・SP4・SP5）確認されたが、遺物等の出土がなかったため時期については不明である。遺物は2層から刻目突帯文土器の小片などを含む縄文時代後期や弥生土器などが、3層は出土量こそ少ないが弥生土器の底部が出土した。5層から縄文土器2点が出土した。

今回の調査では、3層で遺構を確認したが、各遺構とも検出面からの深度が浅いため、3層上面までは削平を受けているものと考えられる。遺物包含層としては2層・3層・5層が確認できた。住宅建設工事（基礎工事）における掘削は地表から最大70cmに及び、遺物包含層である2層・3層が削平されることから、基礎掘削工事にあたっては工事立会で対応する必要がある。（吉岡）

【参考文献】長崎県埋蔵文化財センター「稗田原遺跡・下宮遺跡 -一般県道野田島原線道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書」

（長崎県文化財調査報告書第194集、長崎県埋蔵文化財センター、2007年）



過去の本調査箇所



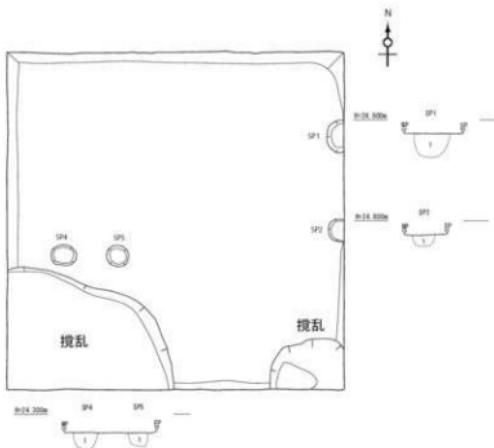
調査位置図



3層上面検出遺構（西から）

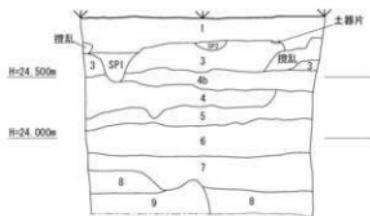


調査坑完掘状況（南から）

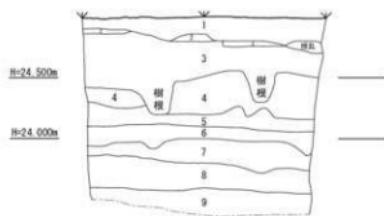


3層 上面検出遺構平面図 ($S=1/20$)

遺構断面図 ($S=1/10$)



東壁土層断面図 ($S=1/40$)



北壁土層断面図 ($S=1/40$)

【土層注記】

1層：表土（耕作土）碎石・建築用廃材等を含む。

2層：黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR2/2)

粘性やや弱、しまりややあり。0.1mm 以下の土壤主体の層。

5mm 大の亜角礫赤色粒少量含む。1 ~ 6cm 大の亜円礫ディサイト少量含む。

弥生中期以降の遺物包含層。県報告書のIII層相当か。

3層：暗褐色砂礫土 (Hue10YR3/3)

粘性あり、しまりあり。5mm ~ 1cm 大の礫を 5% 程含む。

縄文土器の小片・弥生土器を含む。県報告書のIV層相当か。

4層：にぶい黄褐色砂礫土 (Hue10YR4/3)

粘性あまりなし、しまり弱。1 ~ 3cm 大の礫を 25% 程含む。無遺物層。

県報告書のIX層相当か。

4b層：にぶい黄褐色砂礫土 (Hue10YR4/3)

粘性あまりなし、しまり弱。細粒砂主体の層で4層よりキメが細かい。無遺物層。

5層：暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/4)

粘性あまりなし、しまり弱。5mm～1cm大の火山性細礫を10%程含む。

縄文土器の細片を含む。県報告書のXI層に相当か。

6層：暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/4)

粘性あり、しまりあり。5mm～2cm大の火山性小礫を25%程含む。

7層：極暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR2/3)

粘性あり、しまりあり。5mm～1cm大の火山性細礫を25%程含む。

8層：黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR2/2)

粘性あり、しまりあり。5mm～1cm大の火山性細礫を30%程含む。

9層：黒褐色混バミス硬質土 (Hue10YR2/2)

粘性弱、しまり非常に強。2mm～1.5cm大の火山性礫を75%程含む。

いわゆる「カシノミ層」

基盤層：5cm～拳大の礫の円礫からなる層。礫は角閃石や黒雲母等を含む。

第3章 総 括

令和2年度は、12件の範囲確認調査を実施した。基盤整備事業に先立つ中原・寺中地区の調査では、寺中城跡において表土からの出土ながら弥生時代の甕が出土しており、中世城館跡としての性格のみならず、他時代の遺物も含む複合遺跡として的一面が垣間見える成果を得た。当該地周辺の基盤整備事業にあたっては、関係機関との協議を重ね必要な保護措置を講じていく必要がある。

民間開発では島原城跡における範囲確認調査を多く実施した。当該年度の調査において、島原城跡に関連する明確な遺構は確認できなかったが、今後も開発工事に際しては、積極的な範囲確認調査を実施することにより島原城外曲輪における調査成果を蓄積していくことが保護の上でも重要であると考える。

また、小原下遺跡の範囲確認調査においては、調査後に工事立会の対応を講じたことで埋甕の確認につながり、必要な記録保存を実施することができたものである。これは、過去の発掘調査成果に基づき慎重な判断を下した結果得られた成果であると評価している。

余談ながら、令和2年度に長崎県埋蔵文化財センターが実施した「島原道路」建設に伴う発掘調査において、「カシノミ層」の下位層より旧石器が出土した。島原市においてはこれまで、表採資料を除き旧石器の出土例はなかったため、「カシノミ層」を完掘面としていたが、令和2年度の下半期からは旧石器の存在の可能性を考慮した調査を実施することとした。

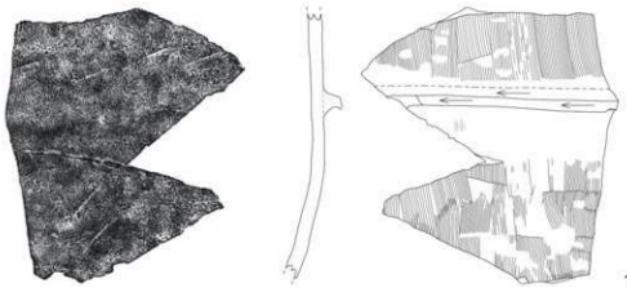
末筆ながら、現場における発掘調査と埋蔵文化財収蔵庫における整理作業に従事していただいた作業員、調査に協力を賜った方々に御礼申し上げたい。（吉岡）

図 版

出土遺物実測図

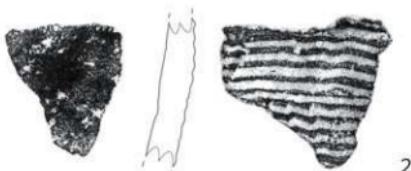
令和2年度に出土した主な遺物を掲載する。紙幅の都合もあり、実測に耐えうる遺物を中心に掲載する。

寺中城跡出土遺物



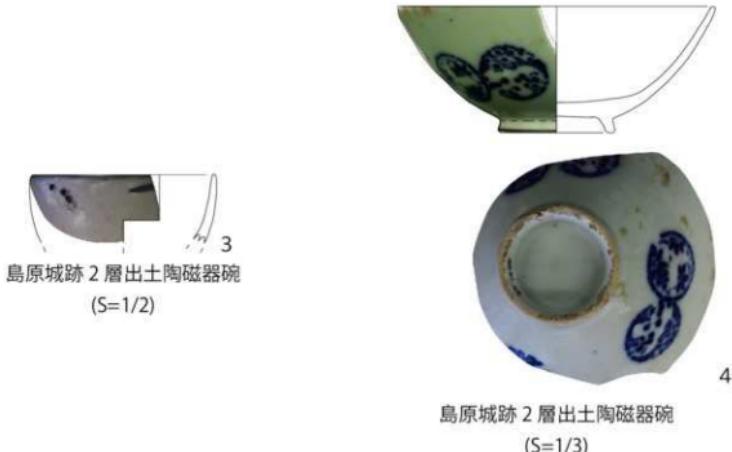
寺中城跡 (TP6)1 層出土弥生土器壺 (S=1/2)

上野遺跡出土遺物

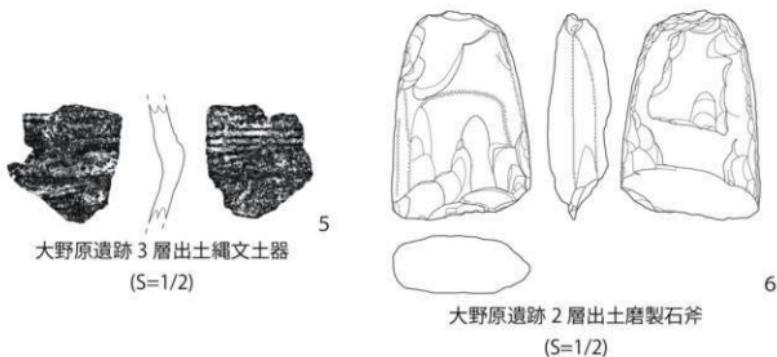


上野遺跡 (TP5) 出土縄文土器 (S=1/2)

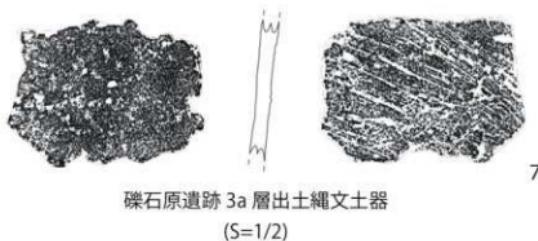
島原城跡出土遺物



大野原遺跡出土遺物



礫石原遺跡出土遺物



小原下遺跡出土遺物



8

小原下遺跡 (TP3)3層出土繩文土器 (口縁部)
(S=1/2)



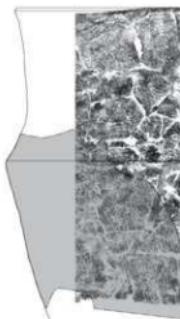
9

小原下遺跡 (TP3)1層出土高坏 (口縁部)
(S=1/2)



10

小原下遺跡 (TP2)3層出土高坏 (口縁部)
(S=1/2)



11

小原下遺跡 (TP9) 出土埋甕 (SK1)
(S=1/6・着色部分はスヌ付着)

稗田原遺跡出土遺物



12

稗田原遺跡 3層出土弥生土器 (底部)
(S=1/2)



13

稗田原遺跡 (2層) 出土弥生土器
(S=1/2)

出土遺物写真

寺中城跡出土遺物



1

寺中城跡 (TP6)1層出土弥生土器壺

上一野遺跡出土遺物



2

上一野遺跡 (TP5)2層出土縄文土器

島原城跡出土遺物



3

島原城跡 2 層出土陶磁器



4

島原城跡 2 層出土陶磁器

大野原遺跡出土遺物



5

大野原遺跡 3 層出土繩文土器



6

大野原遺跡 2 層出土磨製石斧

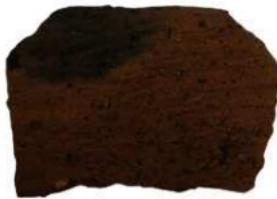
礫石原遺跡出土遺物



7

礫石原遺跡 (TP3)3a 層出土繩文土器

小原下遺跡出土遺物



8

小原下遺跡 (TP3)3 層出土繩文土器



9

小原下遺跡 (TP3) 出土 1 層弥生土器



10

小原下遺跡 (TP2)3 層出土弥生土器



11

小原下遺跡 (TP9) 出土埋甕 (SK1)

稗田原遺跡出土遺物



12

稗田原遺跡 3 層出土弥生土器 (底部)



13

稗田原遺跡 2 層出土弥生土器

[表6] 遺物観察表

No	遺物名	層位	種類	器種	器高	部位	鉢土	強度	調整	色調
1	寺中遺跡	1	学生土器	要	16.3cm(残)	肩部	底(1mmの石英・鈍石少量、1mm以下の雲母を含む)	良好	(外) ハケメ (内) ナデ	(外) 伐薪緑色(Hue7, 51RS4) 一部にスス付着
2	上野遺跡	2	礎文土器 (一剪式)	深井	6.1cm(残)	肩部	底(2~4mmの長石少量・石英・雲母を中量含む)	良好	(外) 磨化の貝殻条痕文 (内) ナデ	(外) 緑色(Hue7, 51RS5) (内) にぶい褐色(Hue7, 51RS6)
3	鳥原塙跡	2	陶磁器 (肥前)	碗	2.5cm(残)	口縁部	底	良好	(外) 肩曲(捻付) (内) 肩曲	(外) 灰白色(Hue7, 517/1) (内) 灰白色(Hue107/1)
4	鳥原塙跡	2	陶磁器 (肥前)	碗	5.2cm	口縁部	底	良好	(外) 斧輪 (内) 斧輪	(外) 灰白色(Hue108/1) (内) 灰白色(Hue107/1)
5	大野原遺跡	3	礎文土器 (三万田式)	浅井	4.8cm	口縁部	底(1mmの長石・角閃石・石英を中量含む)	良好	(外) 灰白色(Hue7, 51RS6) (内) ナデ・沈積文 (内) ヨコナデ	(外) 紅色(Hue7, 51RS7) (内) にぶい褐色(Hue7, 51RS7/4)
標考										
No	遺物名	層位	種類	器種	器高	部位	鉢土	強度	調整	色調
6	大野原遺跡	2	繩器	磨製石斧	最大長: 18.4cm(残) 最大幅: 5.7cm 最大厚: 2.5cm 重量: 177.36g	安山岩	底(1mmの雲母・角閃石・石英を少量含む)	良好	(外) ナデ・柔軟文 (内) ヨコナデ	(外) にぶい褐色(Hue7, 51RS5) (内) 赤褐色(Hue2, 51RS4)
No	遺物名	層位	種類	器種	器高	部位	鉢土	強度	調整	色調
7	繩石刀頭跡 (TF 3)	3a	礎文土器	深井	5.7cm(残)	肩部	底(1mmの長石・角閃石・雲母を多量に含む)	良好	(外) ナデ・柔軟文 (内) ヨコナデ	(外) にぶい褐色(Hue7, 51RS5/3) (内) 赤褐色(Hue2, 51RS4/3)
8	小原下遺跡 (TF 3)	3	礎文土器	深井	3.3cm(残)	口縁部	底(3mmの長石少量、1mm以下の雲母・角閃石を中量含む)	良好	(外) 残餘柔軟文 (内) ヨコナデ	(外) 紅色(Hue7, 51RS6) (内) にぶい褐色(Hue7, 51RS6/4)
9	小原下遺跡 (TF 3)	1	学生土器	高环	1.3cm(残)	口縁部	底(1mm以下の磨石少量含む)	良好	(外) ナデ (内) ヨコナデ	(外) にぶい褐色(Hue7, 51RS5/3) (内) 明麗色(Hue7, 51RS5/6)
10	小原下遺跡 (TF 2)	3	学生土器	高环	5.5cm(残)	口縁部	底(2mmの長石・輝石・石英を少量含む)	良好	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ (工具痕あり)	(外) にぶい褐色(Hue7, 51RS7/3) (内) にぶい褐色(Hue7, 51RS6/4)
11	小原下遺跡 (TF 9)	4	礎文土器 (三万田式)	深井	10.3cm(残)	口縁部	底(1mmの角閃石・長石・雲母を中量含む)	良好	(外) ナデ・ハケメ痕文 (内) ヨコナデ (内) ミガキ・ヨコナデ	(外) にぶい褐色(Hue7, 51RS5/4) (内) ヨコナデ (内) ミガキ・ヨコナデ
12	桜田原遺跡	3	学生土器	鉢小	1.0cm(残)	底部	底(1mm程度の長石・輝石・角閃石を多量に含む)	良好	(外) ナデ (内) ヨコナデ	(外) 紅色(Hue7, 51RS7/5) (内) 紅色(Hue2, 51RS7/6)
13	桜田原遺跡	2	学生土器	不明	7.0cm(残)	肩部	底(2mm程度の角閃石・雲母・長石を多量に含む)	良好	(外) ナデ (内) ヨコナデ	(外) 明赤褐色(Hue7, 51RS6) (内) 紅色(Hue7, 51RS7/5)

報告書抄録

ふりがな	しまばらしないいせきはんいかくにんちょうさほうこくしょ いち								
書名	島原市内遺跡範囲確認調査報告書 1			副書名	令和2年調査分				
シリーズ名	島原市文化財調査報告書				シリーズ番号	第20集			
編著者名	吉岡 慶文 山下祐雨								
編集機関	島原市教育委員会								
所在地	〒 859-1492 長崎県島原市有明町大三東戊 1327 番地 TEL 0957-68-5473								
発行年月日	令和4年(2022)3月								
所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 °'\"/> 東経 °'\"/>	調査期間	調査面積	調査原因			
寺中B遺跡	中野町	12	32/49/14	130/20/46	20200416～0420	4 m ²	ほ場整備事業		
寺中城跡	寺中町尾崎他	13	32/49/23	130/21/00	20200617～0714	13.6m ²	ほ場整備事業		
寺中城跡	中野町城の鼻	84	32/49/39	130/20/32	20201112～1113	4 m ²	ほ場整備事業 (土壤調査)		
上一野遺跡	有明町松崎名	203	45	32/47/37	130/21/53	20200415～0416	3.75m ² 個人住宅		
島原城跡	城内一丁目					20200612～0619	6.63m ² 集合住宅		
	城内二丁目					20200622～0623	3.91m ² 提揚台新設		
	城内三丁目					20201209～1211	3 m ² 個人住宅		
	他					72	32/50/51 130/20/2	20200602～0608 6.48m ² 净化槽埋設	
大野原遺跡	有明町大野名					7	32/48/1 130/1845	20200803～0821 18.9m ² 太陽光発電所	
礫石原遺跡	礫石原町					79	32/50/15 130/20/34	20210201～0217 4 m ² 緑地整備	
小原下遺跡	有明町小原名					79	32/50/15 130/20/34	20210212～0409 36m ² 工場建設	
小原下遺跡	有明町小原名					31	32/48/42 130/21/6	20210315～0319 4 m ² 個人住宅	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
寺中B遺跡	遺物包含地	弥生／古墳	ピット7基	縄文土器	継続協議				
寺中城跡	城館跡	縄文／弥生	—	縄文土器・弥生土器	継続協議				
上一野遺跡	遺物包含地	縄文／古墳	—	黒曜石・縄文土器・須恵器	継続協議				
島原城跡	城館跡	近世	—	陶磁器					
大野原遺跡	集落／遺物包含地 / 墓塚(弥生)	縄文／弥生 / 古墳／古代	ピット1基(縄文)	縄文土器・黒曜石・土師器・ 墨書き土器					
礫石原遺跡	遺物包含地 / 墓塚	縄文	割石遺構(近現代)	縄文土器・黒曜石					
小原下遺跡	集落 / 遺物包含地	縄文 / 中世	ピット10基・ 埋甕(縄文後期)	三万田式土器					
稗田原遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生	ピット4基	縄文土器・土師器	工事立会 (実施予定)				

島原市文化財調査報告書 第20集

島原市市内遺跡範囲確認調査報告書 1

【令和2年度調査分】

発行月：令和4(2022)年 3月

編集・発行：島原市教育委員会

長崎県島原市有明町大三東戊 1327 番地

TEL：0957-68-5473

印 刷：三会印刷

長崎県島原市亀の甲町乙 1657-1

TEL：0957-65-4156

